

令和7年度

芝田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら学び、互いに高め合う授業の実践
- ICTを適切に活用して学習効果を高める授業の実践

校長

鈴江 裕子

学力向上推進員

吉田 里織

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科において基礎的・基本的な学習内容は概ね身に付いている。 ●「理解に時間がかかる」「定着が難しい」「語彙が少ない」児童がおり、個人差が大きく、二極化が見られる。	・身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。 ・学習のきまりや学習方法を習得し、辞典や資料、ICTなどから様々な情報を適切に収集し、活用することができる。	・個に応じた指導を継続しながら、身に付けた基礎・基本的な知識技能を様々な学習場面でも活用できるように指導する。 ・学習規律や学習方法を発達段階に応じて指導するとともに、身についた語彙力を使って、作文や俳句作りができる場や機会を増やす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動においては、進んで表現しようとしたり、相手に伝わるように筋道を立てて話したりする児童が増えてきている。 ●与えられた材料から目的に応じて思考判断したり、話し合い活動を通して考えを深めたりすることに課題がある。	・協働的な学習活動に積極的に取り組み、対話的な活動の中で、相手の意見に耳を傾けたり自分の考えを積極的に話したりすることができる。 ・多面的な見方や考え方ができ、新しい考えを生み出したり、自分の考えを深めたりする。	・自力解決の時間を重視するとともに、練り上げの場面では、それぞれの意見や考え方を筋道を立てて発表させたり、文章に書かせたりして、協働的によりよい解決ができるようにする。 ・話し合い活動を全教育活動に位置づけ、活動を積み重ねて行く中で、児童が自信をもって自分の考えを述べたり深めたりできるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守って、落ち着いた態度で真面目に学習に取り組むことができる児童が多い。 ○ICTの活用により、興味をもって学習したり、時間を有効活用して自己の課題に意欲的に取り組んだりする児童が増えている。 ●難しいと感じることに対して、粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。	・目標をもって学習に向かい、課題解決のために自分の考えをもったり、解決の方法を選んだりすることができる。 ・様々な種類の本に触れ読書の質を高めたり、自主学習に進んで取り組んだりして、自ら学ぶ楽しさを実感することができる。	・新しい課題や疑問に思うことをICT等を効果的に使いながら、興味関心を持って自ら調べさせたり、積極的に解決の方法を考えさせたりする。 ・学びを振り返る時間を設け、学習の達成度や自分の成長、今後の課題等を児童自らが認識できるようにする。 ・積極的に本の貸し出しを行い、家庭と連携しながら家庭読書の習慣化を図る。			